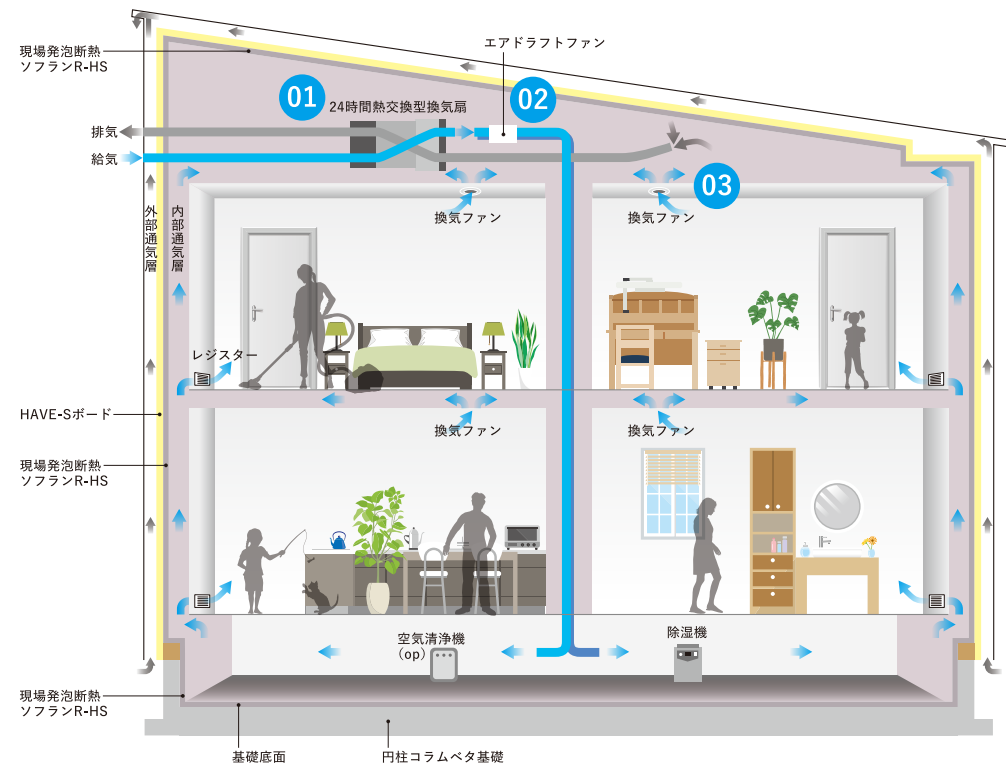


空調換気システム

HAVE-S エアファクトリー

常に温度、湿度が調整された快適な空気が循環し心地よい室内環境を整え、家族の健康を守ります。



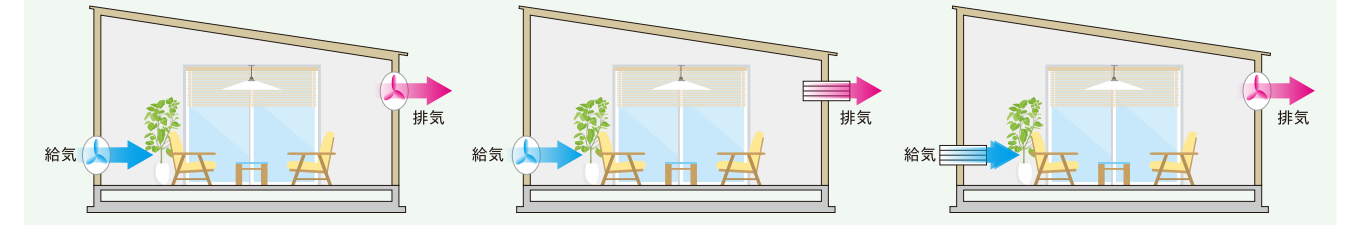
HAVE-S 工法は第1種換気のオリジナル全館空調システムを採用しております。小屋裏の熱交換型換気扇により外部から取り込まれた新鮮な空気は2基のエアードラフトファンにより床下に送られます。床下に送られた空気は除湿機、空気清浄機により適切に調整され、床下～壁内部の通気層を通り、各部屋を經由し小屋裏へ戻り、外に排気され、同時にまた新鮮な空気を取り込み循環させます。このように家全体、床下～壁の中～各部屋までに常に快適な空気が循環するため、少ない冷暖房設備での全館冷暖房も可能になります。また、壁の中を空気が通るため壁内結露も防止でき建物の長寿命化も図ることができます。このエアファクトリーは高い気密断熱性能があって成り立つシステムです。

- Point 1** 各部屋はもちろん、小屋裏～床下～壁内部まで常に快適な空気が循環。
- Point 2** 壁内部も常に新鮮な空気が流れる事で壁内結露を防止。
- Point 3** 家全体を空気循環させるため、少ない台数の冷暖房機により、より少ない熱量での全館冷暖房を可能に。
- Point 4** 床下の除湿機により、梅雨時の多湿を防止し、快適な環境を保持。
- Point 5** 空気清浄機能により、花粉・雑菌・カビ・ウィルス等も除去。

健康住宅とは
 高齢化が進む現代において、住宅のバリアフリーが必須の条件になりつつあります。医学界からは、住環境、特に熱環境の均一化の重要性が指摘されています。暖房室と非暖房室との温度差による「ヒートショック」が脳卒中・心臓病リウマチ等の原因になるともいわれており、高气密、高断熱の高性能住宅で温熱環境のバリアフリー、つまり温度差のない住宅が不可欠となってきます。

現在の住宅には計画換気が義務付けられており、その換気方法は主に3種類あります。

住宅では主に『第3種換気』と『第1種換気』が使われており、一般的に多いのは『第3種換気』で、排気のみを機械で行い給気は壁に付けた給気口から自然給気します。この場合、室内の気圧が低くなり天井裏や壁の中の空気が室内に引き込まれる可能性があります。また、給気口がリビング、寝室など複数になり、外気の影響を受けやすくなるため、熱ロスにもつながってしまいます。『第1種換気』は給気も排気も機械で行うタイプのため、内外の気圧差も少なく、熱交換型換気扇を使うことにより、熱ロスも少なく制御しやすいので、換気量を確保するのに最も適した換気方法になります。



- 第1種換気**
 ●給気 — ファン
 ●排気 — ファン
 給気と排気の両方とも換気ファンを用いるもの。
 給気量と排気量を確実に確保するにはもっとも適しています。
- 第2種換気**
 ●給気 — ファン
 ●排気 — 自然
 給気は換気ファン、排気は自然排気口を用いるもの。
 気密性能の低い住宅では、壁体内への湿気の進入により内部結露発生の危険性があることや、給気ファンから遠い部分の換気が不十分となることがあります。
- 第3種換気**
 ●給気 — 自然
 ●排気 — ファン
 給気は自然排気口、排気は換気ファンを用いるもの。
 外部よりも室内の気圧のほうが低くなるため、天井裏や床および壁内の空気が室内に出てくる場合があります。そのため、居室との間に気密層や通気止による対策、建材による対策、または天井裏の換気による対策が必要です。

